

試験開始の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

2025 年度 郡山女子大学・郡山女子大学短期大学部

一 般 選 抜 I 期

個 別 学 力 試 験 問 題

国 語

(現代の国語、言語文化)

注 意 事 項

- 1 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁等に気付いた場合は、監督者に知らせてください。

志 願 番 号		氏 名	
---------	--	-----	--

(

(

解答は、すべて解答用紙に記入すること。

問題Ⅰ

次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

人間は個人であると同時に社会人として生まれ、言語と労働によつて社会的に①キンミツなつながらを持っている。

しかし今、社会人としての意識を妨げる大きな壁がたちだかっている。その一つは、人びとを意識の上でも、実生活の上でも、社会的に分離してしまう格差と差別の壁である。ア、正規・非正規労働者間の壁や、生活格差や教育格差もその一つだろう。

同時代の社会に生きる私たちは、このような格差社会の中では相互関係も相互移動もない別々の社会に分裂して生活し、民主的な合意によつて決めなければならない社会的制度を、一部の優位に立つ者が決めてしまう結果を招くことになるかもしれない。(A)あるいはその不満がポピュリズムにもなつて暴走することもあるだろう。

その時、社会人はその格差や差別をどのように考え、どんな態度を取り、対処していくべきなのだろうか。それは社会人としての資質にかかわる大きな問題だと思われる。

ある人は経験や知識に基づく想像力によつて、異なる社会で生活する人の立場を理解しようとするだろうし、ある人は直感的な同情心によつて手を差し伸べようとするだろう。自分も健康を損えば、あるいは事故や災害にあえば、あるいは貧困に陥れば、どうなるかを想像し、(B)「明日は我が身」にも起こること、と考える人もいるだろう。あるいは不幸な生活から脱け出せない人びとがいるこの社会のあり方を、変えなければと考える人がいるかもしれない。

イ 社会的習慣や教育の中で、絶えず他者に対する関心を育んでいるような社会ならば、未経験であつても他者の世界に対する想像力はそうでない社会よりも大きく育っていると思う。私は祖母が「金配りはできなくても気配りはできるから」と常々言っていた言葉を懐かしく思い出す。

ウ、われ関せずとばかりに他者のことを眼中におかない(あるいは気がつかない)人も実際にいるのである。そんな人は、無関心ということだが民主主義社会を②瓦解させる一つの要因であることに思いを及ぼすべきだ。

大企業で働く正規社員や重役が、自分の得たボーナスの一部は、もしかしたらボーナスも安定した雇用もない、低賃金の非正規社員の働きから生まれているかも、と感じることは、精神的に楽しいことではない。無関心とは考える力も想像力も棚上げして、安楽を求める一種の自己③ボウエイであるのかもしれない。しかし、それは社会人にふさわしい感情や考えかたなのだろうか。

民主主義をどう理解するかはさまざまであるとしても、(C)民主主義でない社会のほうがいいと思う人は僅かだろう。民主主義社会の欠点を指摘す

る人も、あるいは消去法によつて民主主義を④肯定する人も、人間が歴史的に到達し得た社会としての民主主義をよりよく発展させようとしている。それは、民主主義社会が個人の人權と自己決定権を大切にし、私たち自身が社会を改善することを可能にするからである。

エ、民主主義社会の私たちは、格差や差別をできる限り少なくして、すべての人が「このように生きたい」と思う人生を実現できるように、社会的な基盤を整え、人權の平等に向けて努力を積み重ねていくことを受け入れなければならない。

社会的な基盤とは、平等な一市民として政治・社会への参加を可能にする前提条件である教育制度や、生活保障としての各種の社会保障制度であり、公民館・図書館・博物館・スポーツ施設・公園や公営住宅、保育所・学校、ハローワークや相談施設などの社会資本・公共サービスである。それに加えて、自発的な市民の互助互恵グループの活動も重要な役割を果たす。現在、税金や保険料によつて提供される公共サービスは、以前なら道路一つ作るにも労働そのものを提供する共同作業によつて行われていた。現在、税金や保険料によつて提供される公共サービスは、以前なら道路一間の社会に必要なのは社会的協力であることを知っていた。現在では税金を払うだけで、協力と共同の世界は見えない。

そして⑤リジユン獲得のためなら、格差を拡げ、分裂した差別社会が再生産されても、意に介さないように人びとは意識的にしつけられているようにさえ思える。人は個人の世界の幸福には目を向け、自分の生活が少しでもよくなることには努力するけれども、社会がよりよくなることには無関心のようなのだ。

そんな社会の中で、社会人が持つ判断力と行動力は、競争社会の持つ欠陥を是正し、人びとに生きがいを与える人生への希望をよみがえらせることができるのだろうか。

（暉峻淑子『社会人の生き方』岩波新書 二〇一二年、一部改変）

【一】傍線部①～⑤の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直して書きなさい。（二点×五＝十点）

【二】二重傍線部（A）「あるいはその不満がポピュリズムにもなつて暴走することもあるだろう」に込められている筆者の意図に最も近い意味をもつ文章を次のアからオの中から一つ選び、記号で答えなさい。（三点）

ア 大衆や階層に迎合した政治家の登場で、熟慮の上で表明されるべき国民の意向が、印象による操作の対象になる可能性を懸念している。

イ 国民の声を代弁する政治家の登場で、国民の政治参加が活発になる可能性に期待している。

ウ 政権与党が国民の不満の対象となり、一方で野党へ支持が集まつて政権交代に可能性が開かれるということを予想している。

エ 社会の中での他者への無関心が進んでしまうことに、危機感を覚えている。

オ 政治家など、誰がなつても同じだと感じ、投票率の低下等、政治的無関心が広がる可能性があることを指摘している。

【三】ア イ ウ エ オ に入る適当な語句を次の①から⑤からそれぞれ一つ選び、番号で答えなさい。(二点×五＝十点)

① かし

② たとえば

③ もし

④ つまり

⑤ とすれば

【四】二重傍線部(B)「明日は我が身」とあるが、それは具体的には、どのようなことか。本文中の語句を用いて説明しなさい。(七点)

【五】二重傍線部(C)「民主主義でない社会のほうがいいと思う人は僅かだろう」とあるが、その理由として、筆者の考えに最も近いものを次のアからオの中から一つ選び、記号で答えなさい。(二点)

ア 独裁政治には、無駄が少ないと思われるから。

イ 民主主義には合意形成に時間がかかるという問題や、公共サービスへのフリーライダーの問題があり、簡単に賛成することは難しいから。

ウ 民主主義は、適者生存の自然法則に適っているから。

エ 民主主義は、その社会の構成員全ての存在価値を認めた上で社会改善を目指すので、最も多くの人に関わる政治体制といえるから。

オ 民主主義は、ポピュリズムにもなつて暴走することも考えられるから。

【六】二重傍線部(D)「目に見える形で社会的な連携が行なわれていた」とあるが、今は以前とは何が違うというのか。本文中の語句を用いて、筆者の考えを説明しなさい。(七点)

問題Ⅱ 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

高校生ぐらいまでは、フィーリング共有性^(注)の高い、同世代で自分と同質の小さな集団のなかで自己完結し、そこで①ヘイサ的な仲間集団を作って生活していることが多いと思います。

しかし、学校を卒業してやがて社会に出れば、自分たちと同じ②ソクセイを③帯びる集団以外の、さまざまな世代や違う価値観をもった人たち、違う地方や、場合によっては外国からきた人たちなどと出会い、関係を作っていくなくてはなりません。

気が合うか合わないかというフィーリングの共有というよりは、役割を分担しながら一緒に仕事をして④ギョウセキを上げることが第一に重要になる「社会的な関係」にはいると、フィーリングの合う人とだけ付き合うというわけにはいきません。だからそれまでに、自分のなかに異質なものを取り込めるようなある種の構えというものが、どうしても必要になってくるのです。

となると、やはり単に「こいつは俺と同じだ」という同質性だけに頼って友だちをつなげていくような親密な関係の作り方だけをしていると、
(A) いきなり社会に出たときにどうしても戸惑いが大きくなります。

異質なものをさまざまに取り込む力がないと、つながりを保てなかったり、異質な他者との交流といううま味も、味わえなかったりします。

やはり、関係の作り方のポイントとして、異質性、あるいは他者性というようなものを少しずつ意識して、それを通してある種の親しさみたいなものを味わっていくトレーニングを少しずつ心がけていくことが大切です。最初からというのは無理かもしれないけれど、少しずつ慣れていくのです。

さらにいえば、フィーリング共有性を重視してつながった関係の友だちでも、やはりその中にもフィーリングの違いが出てくることもあると思います。でもそれはそれとして、また違った形でフィーリングのつなぎ方をより深めていくきっかけとしてお互い認め合うべきです。ちよつとでも違うと、「あ、この人違う」となって、関係を保つ努力を放棄しては、人と関係を作る力もつきません。(B) ある程度辛抱強さがないと、どのみち人づきあいはうまくいかないものなのです。

人との関係を作っていくたい、つながりたいという積極的な思いが一方であり、でもやっぱり傷つくのはいやだといった消極的な恐れ感情もある、それが人間です。私の印象では、若い世代であればあるほど、傷つきやすさというものを内面的に持っている人が増えているのかなあ、という気がしています。「傷つきやすい私」が増えているように思うのです。

「人とつながりたい私」と、でも「傷つくのはいやだという私」という一見すると矛盾した自我のあり方と、自分自身でどう折り合っていけばいいのでしょうか。やはり基本的には、この人は自分にとって「信頼できる他者」だ、と思える人を見つけるということが絶対必要になると思います。

しかし、その場合、信頼できる「私と同じ人」を探すというよりは、信頼できる「他者」を見つけるという感覚が大事です。

どうということかという、信頼はできるかもしれないけれど、他者なのだから、決して自分のことを丸ごとすべて受け入れてくれるわけではないということ、しっかり理解しておこうということなのです。

「自分のことを百パーセント丸ごと受け入れてくれる人がこの世の中のどこかにいて、いつかきつと出会えるはずだ」という考えは、はつきり言って幻想です。「自分というものをすべて受け入れてくれる友だち」というのは幻想なんだという、どこか醒めた意識は必要です。でもそれは他者に対して不信感を持つことと決してイコールではないということは、皆さんなら、きつと理解していただけるはずですね。

価値観が百パーセント共有できるのだとしたら、それはもはや他者ではありません。自分そのものが、自分の〈分身〉か何かです。思っていることや感じていることが百パーセントぴたり一致していると思っただけで向き合っているのは、相手ではなく自分の作った幻想にすぎないのかもしれない。つまり相手の個別的な人格をまったく見ていないことになるのかもしれないのです。

きちんと向き合っていない以上、関係もある程度以上には深まっていかないし、「付き合っただけで、何かさびしい」と感じるのも無理のないことです。^⑤過剰な期待を持つのはやめて、人はどんなに親しくなっても他者なんだということを意識した上での信頼感のようなものを作っていく必要はないのです。

このことと少し関連するのですが、このところ、自分を表現していくことに対して、すごく恐れのある人が多くなっているのではないかと思うのです。思春期というのは多かれ少なかれそういうものですが、それはなぜかという、「百パーセントわかってもらいたい」とか、あるいは「自分の本当のところをすべてきちんと伝えたい」と思ってしまうことが原因なのではないかと思います。それもやはり、「百パーセントの自分を丸ごと理解してくれる人がきつといるはずだ」という幻想を、知らず知らずのうちに前提しているためです。

むしろ「人というものはどうせ他者なのだから、百パーセント自分のことなんか理解してもらえっこない。それが当然なんだ」と思えばずっと楽になるでしょう。だから、^(c)そこは絶望の終着点ではなくて希望の出発点だというぐらい、発想の転換をしてしまえばいいのです。

菅野仁『友だち幻想 人と人の〈つながり〉を考える』ちくまプリマー新書 二〇〇八年、一部改変

(注) フィーリング共有性：お互いが同じように考え、同じ価値観を共有していると思うことで結束を固める様子。

【一】傍線部①～⑤の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直して書きなさい。(二点×五＝十点)

【二】二重傍線部(A)「いきなり社会に出たときにどうしても戸惑いが大きくなります」とあるが、なぜそうなると考えられるか。本文中の語句を用いて答えなさい。(十点)

【三】二重傍線部(B)「ある程度辛抱強さがないと、どのみち人づきあいはいまぐいかないものなのです」とあるが、人づきあいをうまくいくようにするためにはどのように辛抱強く努力すればよいか。「どのみち」に着目して、複数の場合について本文中の語句を用いて答えなさい。(十点)

【四】二重傍線部(C)「そこは絶望の終着点なのではなくて希望の出発点だ」とあるが、これはどのようなことを言おうとしているのか。本文中の語句を用いて説明しなさい。(十点)

【五】本文を踏まえ、「人間関係のあり方」について、あなたの考えを二〇〇字以内で書きなさい。(二十点)

氏名		
志願番号		

得点

問題Ⅰ

【六】	【五】	【四】	【三】	【二】	【一】
			ア		①
			イ		②
			ウ		③
			エ		④
			オ		⑤
7点	3点	7点	10点	3点	10点

問題Ⅱ

【一】	【二】	【三】	【四】
①			
②			
③			
④			
⑤			
10点	10点	10点	10点

緊密

ア

1

③

ウ

①

工

⑤

才

④

3点

利潤

10点

【四】

(例) 異なる社会で生活する人々が直面している様々な不幸が、近い将来には自分にも起こるかもしれないということ。

7点

【五】

工

3点

【六】

(例) 他者が必要とする社会的な基盤を整えるために、以前ならば人々が直接労働を提供して共同作業を行い、社会の絆を強めたが、現在は公共サービスの制度化が進み、人々は税を納めるだけで他者の生活には直接は関わらず、自己の利益拡充にのみ専念しているから。

7点

①

閉鎖

②

属性

③

お

④

業績

⑤

かじよう

10点

[11]

(例) 同質性だけに頼って友だちをつなげていくような親密な関係の作り方だけをしていると、フィードバックの合う人とだけ付き合うようになるために、さまざまな世代や違う価値観をもった人たちと役割を分担しながら一緒に仕事をして業績を上げる「社会的関係」の中に入ると自分の中に異質なものを取り込む手段や方法がわからずにどうしたらよいか迷うため。

10点

【iii】

(例) さまざまな世代や違う価値観をもつた人たちとつきあう場合は、異質性、あるいは他者性といううなものを少しずつ意識して、それを通してある種の親しさをみたいなものを楽しむといくつ少ずつ心がけていく。もととフイーリング共有性を重視してつながつた関係の友だちでフイーリングの違ひが出てくる場合には、また違った形でフイーリングのつなぎ方をより深めていくきっかけとしてお互い認め合う。

10点

【四】

(例) 信頼できる「私と同じ人」は自分が作つた幻想であり、相手の個人的な人格をまつたく見ていない。それを探しているうちは、相手との関係もある程度以上には深まつていかないし、「付き合つていても、何かさびしい」と感じて「絶望の終着点」と思つてしまう。しかし、信頼できる「他者」を見つけている感覚であれば、「百パーセント自分のことなんか理解してもらえつこない。それが当然なんだ」という感になり「希望の出発点」だと発想を転換することができる、ということ。

10点

【五】											
		採点のポイント ・テーマと人間関係のあり方に合った内容か。 ・常体と敬体が混在していないか。 ・話し言葉になっていないか。 ・へら抜き言葉、違かつた、「なので」始まり等 ・誤字／脱字はないか。 ・文字数は適切か。(一五〇～二〇〇字)									

20点

二〇二五年度 郡山女子大学・郡山女子大学短期大学部 一般選抜Ⅰ期 個別学力試験		
氏名	国語	
志願番号		